

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



マンゴの実は「マンゴの雨」でいっそう大きくなり、熟し始めます。

雨季の始まり

現地は雨季を迎えています。雨季は命を実感させる季節です。雨が降り始めるや、たちまち荒れ地が緑の草原へと姿を変え、木々は一気に芽吹き、花々が一斉に咲き誇ります。蝶が羽化して水場の周辺を飛び交いもします。そして、この雨季の訪れに先駆けて降る雨を、現地では「マンゴの雨」と言います。マンゴは雨季が始まる2か月ほど前から実をつけ始め、この雨によって熟し始めると言われています。

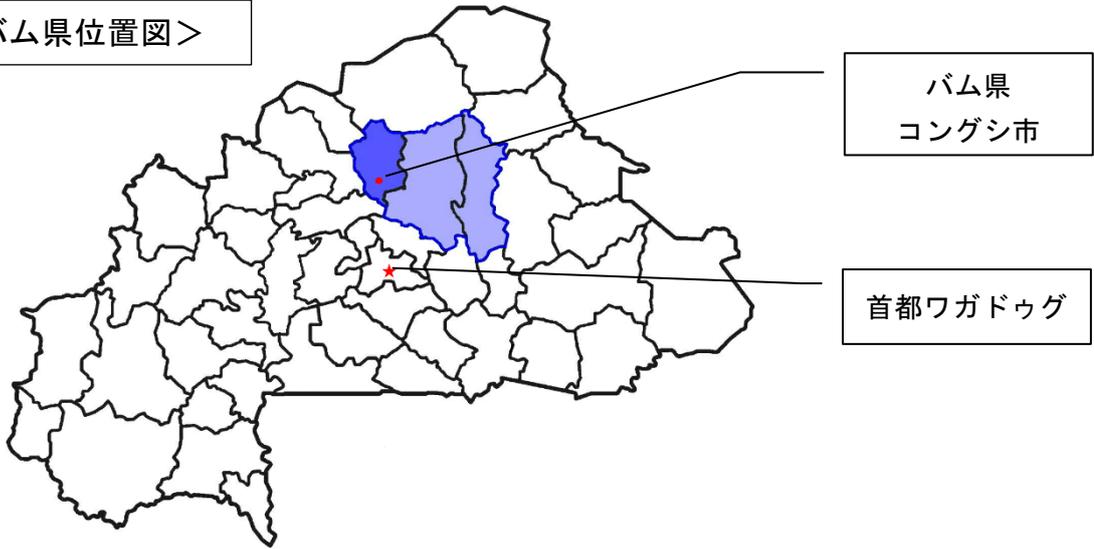
誰もが待ち望む「マンゴの雨」、先月初めに現地の協力団体に確認すると「もう降ったよ！」と明るい声で答えてくれました。そして続けて「そちらのプラムの雨（梅雨）は？」（※梅が実をつけ始める頃に始まるので「梅雨」なのだそうです）「マンゴの雨」に「プラムの雨」、どちらもただの雨には違いありませんが、何かしら人々の思いが込められているような気がして、ちょっと気に入っています。

現地の気温は 30℃強。村々では雨の合間を縫って作付けの準備が進められています。残念ながら昨年は雨不足で、穀物収穫は不作となってしまいました。どこの家も、穀物庫はからっぽです。それだけに、住民たちの今年に賭ける思いはさぞかし強いことでしょう。コロナ禍とテロへの恐怖、先が見えない政情への不安—せめて収穫だけでも…。「マンゴの雨」は期待通りに降りました。あとは祈るのみです。

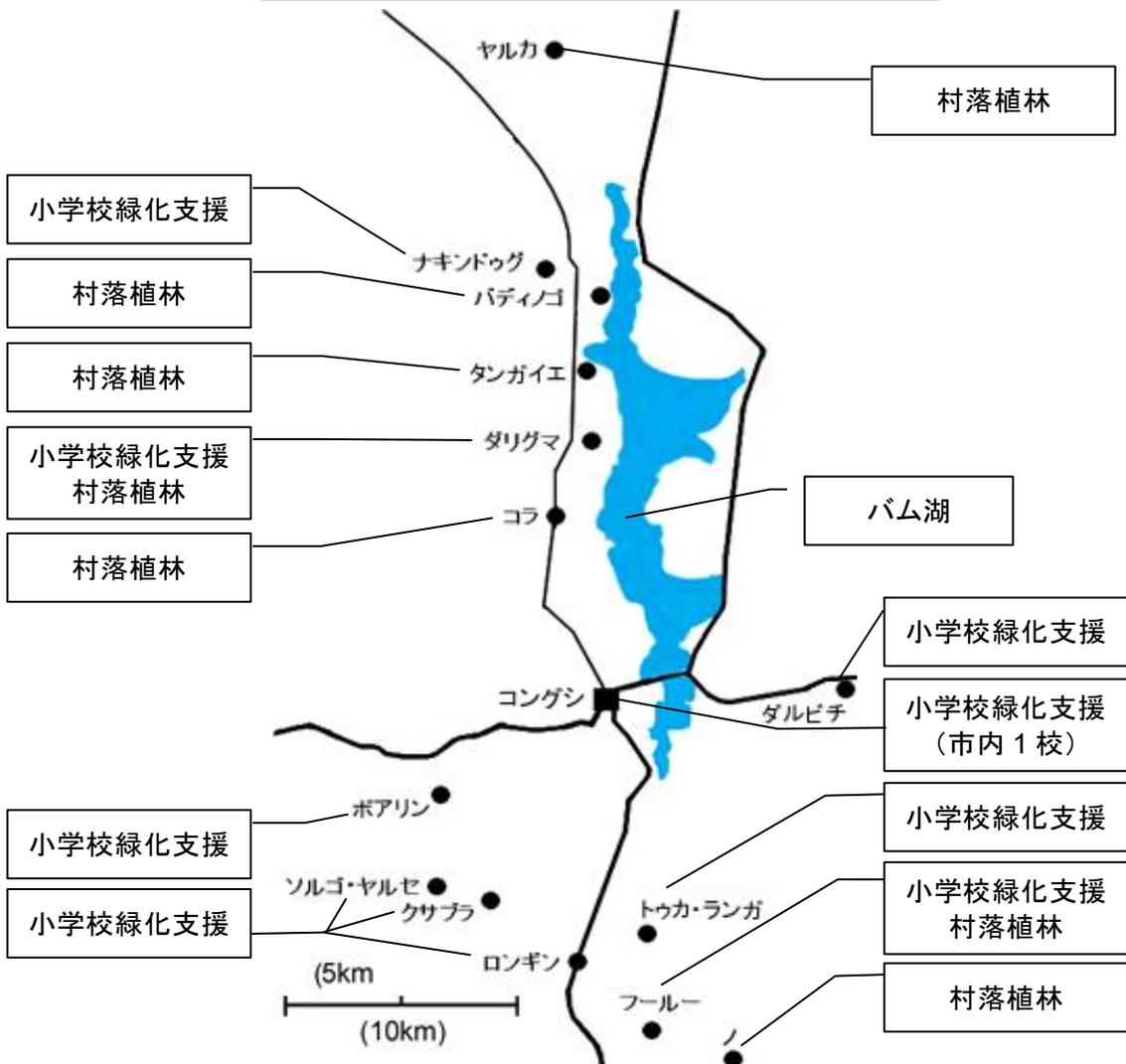
緑のサヘル 事務局長 菅川拓也

ブルキナファソの活動地域図

<バム県位置図>



<バム県コングシ地域活動実施村位置図>



ブルキナファソから 1



1月に発生したクーデター以来、コングシ地域の治安は小康を得ていますが、テロの危険性は依然として残っています。既に雨季が始まり、各村で作付け準備が進められていますが、住民の移動には慎重を要する状況が続いています。

小学校緑化支援

苗木の植栽は例年7月に行なわれ、10月には枯死してしまった苗木を補うための補植が行なわれます。本植は各校40本ずつ、補植は5本ずつが普通ですが、去年は水不足のため補植本数を減らさざるを得ない等、例年以上に灌水に苦労したところもありました。現在は雨季が始まったことで灌水が楽になり、皆ひと息ついている状況です。6月末には苗木の植栽と後管理に関する「評価調査」と「成績発表会」が予定されています。



各々が担当している苗木の元に集まったポアリン小学校の生徒たち。

学校名	本植	補植	計
リウドゥグ	40	5	45
ポアリン	40	4	44
ソルゴ・ヤルセ	40	6	46
クサブラ	40	4	44
ロンギン	40	5	45
フールー	40	2	42
トゥカ	40	3	43
ダルビチ	40	4	44
ダリグマ	40	7	47
ナキンドゥグ	40	10	50
計	400	50	450

村落植林

昨年11月、6村において計4,700本の苗木植栽が行なわれましたが、その後590本の追加植栽が行なわれ、最終的な植栽本数は計5,290本となりました。毎年家計を助けている用材販売ですが、残念ながら治安への不安から昨年、今年と実施されていません。

村名	植栽本数
バディノゴ	840本
ヤルカ	1,680本
ダリグマ	1,680本
コラ	840本
フールー	150本
ノ	100本
6村	5,290本



順調に育ちつつあるヤルカ村の苗木。



現地協力団体について

「緑のサヘル」の現地協力団体である「AJPEE」（環境畜産保全青年協会）の代表、サワドゴ・ロック・ナゼール氏が、去る2月14日に倒れ、病院に搬送されたものの意識が戻らないまま2時間後にお亡くなりになりました。死因ははっきりしていませんが、このところ続いたコロナ禍や不作、治安の悪化やクーデターの発生等によって、心労が重なっていた可能性もあります。

サワドゴ氏はブルキナファソの首都ワガドゥグの北約110kmに位置するコングシ地域の生まれで、早くから人権運動に身を投じ、地元で映写技師、金密採掘取締官、県知事秘書等を経て有志と共に「AJPEE」を設立、1999年には政府よりNGOの認定を受けました。

「緑のサヘル」が出会ったのは、2005年と2006年に行なったプロジェクト形成調査の際でした。その見識の高さや人望の厚さは圧倒的で、「AJPEE」も地域の人々から強く信頼されていました。長い間パートナー団体を探していた「緑のサヘル」にとっては、やっと見つけた理想的な団体に思えました。

その後、2007年に着手した「小学校緑化支援」を皮切りに、「村落植林」「土壌改良」「食糧増産」「搾油」「家畜飼育」「養蜂」「改良カマド普及」等々、多くの活動と一緒に取り組んで来ました。

そして2019年12月、長年の活動が評価されて環境大臣から勲章を授与されたのは既にお伝えした通りです。その功績を互いに称え合ったばかりだっただけに、「緑のサヘル」も大きなショックを受けています。



採取した蜂蜜を手にするサワドゴ氏(右)。

今後についてですが、「AJPEE」は現場責任者や経理責任者を始め、多くのスタッフが団体に留まり、新代表を中心に全ての活動を継続することを決定しました。前代表の存在が大きかっただけに少なからず不安があったのですが、「前代表の遺志を全員で継いで行く」とのこと。もちろん新体制となった「AJPEE」の見極めは必要ですが、話し合いを重ねた結果、当面はパートナー関係を維持することにしました。

両団体はこれから関係を再構築して行くことになりましたが、相互の基本的な信頼と敬意、地域の人々を活動の主体とする考え方は変わっていません。どうぞ、今後ともよろしくお願いたします。(次号の機関紙では、AJPEEの新代表やその所信をご紹介します予定です)

国内活動



新型コロナに対する措置が徐々に緩和されるのに伴い、社会活動も少しずつ活発になって来ました。それを反映するように、今期は他団体より事務局訪問の申し入れがあり、話し合いを持つ機会を得ました。また、今年も明治学院大学において講義をさせていただきました。

< 国内の主な活動一覧 >

2月	17日(木)	「ササカワ・アフリカ財団」技術情報収集調査団への情報提供 (ブルキナファソの現況、緑のサヘルの活動、現地の農法等)
3月	9日(水)	「ニュースレター No.89」発送開始
	13日(日)	「ピースポート・オンライン勉強会」に関する打ち合わせ
	28日(月)	「緑のサヘル」設立記念日
4月	21日(木)	明治学院大学 法学部 講義 「世界の環境を考える」(3・4年生 80名)

明治学院大学 講義

4月21日、明治学院大学において3年ぶりとなる対面講義を行ないました。同校での講義は2015年以来、8年に亘って続けられていますが、一昨年と昨年はコロナ禍のため参加者が一堂に会することが難しく、配信による講義となっていました。

この講義は3・4年生を対象としたものですが、新3年生にとっては講師を前にした講義は今年が初めてで、開講前の席の取り方や緊張した面持ち等、やや不慣れな様子も見られました。しかし、講義中には一心に話に聞き入りメモを取る学生たち、また講義後には熱心に質問や感想を伝えに来る学生たちも多かったです。通常の授業を受けることが出来なかった2年間の空白を埋めようとするかのような懸命な姿が、とても好ましく印象的でした。

「緑のサヘル」にとっても、昨年11月に岩手県で実施して以来の講義でしたが、受講生たちの表情や反応を見ながら進められる嬉しさを噛み締めながらの、とても充実したひと時になりました。



この後の講演予定ですが、現在のところ神戸大学(10月)、野生生物保全論研究会(10月もしくは12月)、岩手県内小中学校(11月)となっており、この2年間開催が見送られていた国際協カイベントが再開された場合には、ミニ報告会等の実施も考えています。

「緑のサヘル」は講演や研修、セミナーや勉強会等に講師を派遣しています。

どうぞお気軽に事務局までお問合せ下さい！

(Tel:03-3252-1040 E-mail:agsj_tokyo@sahelgreen.org)



「緑のサヘル」の講義を聞いて

前頁でお伝えした通り、明治学院大学で行なわれた講義は、学生たちの熱意が伝わって来る充実したものとなりました。講義終了後、受講した皆さんから寄せられた感想の一部（抜粋）を以下にご紹介します。

- 私達が豊かで安全な生活を送っている一方で、様々なことに苦しみながらも懸命に生きる人達がいることに、とても心が痛みました。実際の写真や経験を通して語られる現実に、私達ができることは何だろうか考える良い機会になりました。私達が忘れていた、一生懸命に生きるという気持ちを、この人々によって再確認した気がします。
- 平和で健康な暮らしの上に様々な発展があるのだと、改めて実感しました。今困っている国や地域の人に、ただ食糧や水や物資を与えるのではなく、健康で安全で豊かな暮らしができるまで支援を続けることが大切だと思いました。
- 今回、砂漠化の現状を知って、その砂漠化による飢えの問題に驚きました。同時に、日本で報道されるニュースは世界で起きている問題の一部に過ぎず、より多くのことに目を向けなければならないと感じました。
- 日本では当たり前とされている大食い番組に対して疑問に思い、世界には十分に食べられない人がいるにも関わらず、そのようなことが行われていることに少し怒りを感じました。
- 印象に残ったのは、私達の支援が必ずしも現地の人達が一番必要な事とは限らないということです。自分達が行いたいことより、そこに住む人の望みを叶える手伝いをする事こそが、本当の「支援」だと学びました。
- アフリカの貧困層の現状を知り、とても悲しい気持ちになると同時に、そのような情報をもっと簡単に手に入れられる環境が必要ではないかと感じました。この講義を受けた学生が、情報を理解、消化し、人に伝える—ここまでの流れを作ることで、活動の規模が大きくなって行くのではと思いました。
- 砂漠化や、それによって起っている様々な問題に対して、今の自分ができることは、その問題を理解すること、その情報を発信することだと考えます。特に私たちの世代は SNS によってあらゆる情報を得ることが多いため、SNS を活用した情報発信が現在の自分にできることだと思います。

「緑のサヘル」ではご自宅で出来るボランティアさんを募集しています。

内容：パソコンを使った調査作業

詳細は事務局までお問合せ下さい！

ありがとうございました

*敬称は略させて頂きました。

【 会員の皆さま 】

鈴木幸子／瀬戸栄一／瀬戸義子／瀬戸謙二／瀬戸泰三／古川フミ子
向井成彦／菊地滋夫／手嶋千恵子／手嶋康／西田陽子／木嶋美加子
田辺諄児／青山初穂／菅沼浩敏／東千尋／竹内信／塩沢拓夫／林裕之
大池良平／宇野泰子／／國岡裕子／水眞陽一／新海真理子／石川祐一
山野上素充／岩永孝子／碓井道子／菅川拓也／(株)ホーム創建

他 匿名をご希望の方 3名

【 ご寄付を頂きました 】

戸澤眞知子／木嶋美加子／奥康功／花垣末男／赤山孝子／赤山美苗
田中浄子／大段紀代子／梅澤智佐江／加納愛子／神野潤子／谷村泰子
百々多岐子／水島多衛子／岩本恵子／高瀬光代／瀬戸義子／手嶋康
田辺諄児／高木瑞穂／加藤治郎／増岡一樹／松田曜子／小笠原弘子
竹越久高／岩永孝子／佐藤裕美／赤山孝子／木野友義／碓井道子
加藤文子／矢野友一郎／大阪信愛学院小学校／岩手プロジェクト

他 匿名をご希望の方 2名

【 古本チャリティ募金を通じてご寄付を頂きました 】

竹越久高／村上和代／浅井徹子／斉藤せい子／水眞陽一

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

中西利果子／神野潤子／瀬戸義子

他 匿名をご希望の方 1名

上記は 2022 年 2 月 1 日から 2022 年 4 月 30 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、5 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／トヨタ自動車(株)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(株)ブギ／国際ソロプチミスト大阪-中央
(特活)環境アリーナ研究機構／(一社)環境メディアフォーラム
LIFULL ソーシャルファンディング／アフリカ料理トライブス
ソフトバンクつながる募金／(特活)国際協力 NGO センター

【 写真を提供しました 】

(株)日本入試センター 小学生対象学習塾「サピックス小学部」塾内教材

「緑のサヘル」からお知らせ

ご支援をお願いいたします！

● 会員を募集しています！



「緑のサヘル」を恒常的に支えて下されませんか？
年会費は、団体賛助会員 50,000 円、個人賛助会員 10,000 円、学生会員 5,000 円です。
会員になって下さった方には会員番号を通知し、当団体のニュースレターと年次報告をお送りします。

● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多くの方々の支えによって活動を続けられています。もちろん、いくらからでもOKです。どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾分け等々、「緑のサヘル」にお託し下さい！生徒会や有志による募金も、大事に大事に使わせていただきます。

● 読み終えた本を送って下さい。

読み終えた書籍を段ボールに詰め、寄付先を「緑のサヘル」とご明記の上、「古本チャリティ募金」に送って下さい。買取金額が当団体へのご寄付になります。（ご発送は「元払い」をお願いいたします）

送り先

古本チャリティ募金 運営事務局
株式会社ブギ 本棚お助け隊
〒112-0012
東京都文京区大塚 3-42-14
北村ビル1階
TEL : 050-3628-4128
<https://hondana.biz>

お送りいただける本

専門書、学術書、ビジネス、哲学、語学、資格、映画、音楽、アイドル、写真集 等

以下は対象外です

- ・定価表示・ISBN バーコードがない本
- ・書き込み、破れ、シミ、臭いのある本
- ・文庫、雑誌、辞典・辞書、教科書、自費出版、非売品、全巻不揃いのコミック 等

● 書き損じハガキや未使用切手を集めています。



国内での活動には、ハガキや切手も必要です。未使用の切手は、そのまま使わせていただきます。
書き損じハガキは、1枚5円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることができます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

【 もくじ 】

- | | |
|---------------|---------|
| 1・表紙 | 5・国内活動 |
| 2・ブルキナファソ活動地図 | 6・事務局より |
| 3・ブルキナファソから 1 | 7・ありがとう |
| 4・ブルキナ 2 | 8・お知らせ |

< 編集後記 >

突然に届いたサウドゴさんの訃報。15年来の同志にして友人を失ったショックは大きく、未だに信じたくない気持ちでいっぱいです。何よりの救いは、彼の遺志を継ごうとしている人々の存在です。心よりご冥福をお祈りいたします。

La Forêt, C'est la Vie!

Vol.90

編集 緑のサヘル 東京事務局 /印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org
〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 N A S ビル 3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041